

**期** 令和元年度 福智町高齢者大学  
期待に胸膨らむ第二の学校生活を開始

50歳以上の生きがいがづくりの場として開催している高齢者大学が、5月14日から開校しました。年間22回の講義では、日帰りバス研修や著名講師による講演などの特別な企画も実施。今年から新たな専門講座「版画」と「実用書道」が加わり、総勢137名の受講生は、新しい学びとの出会いに心を躍らせています。



↑ 新たに今年から赤池教室で始まった専門講座「版画」教室での講義風景。

↓ 天候が優れない中でも、昨年同等の販売額を記録。好天時には屋外も盛況に。



**陶** 上野焼春の陶器まつり  
の里が活気づいた春の恒例催事

上野焼協同組合加盟13窯元による「春の陶器まつり」が4月26日から4日間開催され、約5千人の陶芸ファンが上野を訪れました。各窯の個性豊かな作品が所せましと並び、割引商品が多いことも魅力。来場者は一つひとつ違う釉薬の風合いや感触を確かめるように手に取り、お気に入りの逸品を探していました。

**子** 金田菅原神社神幸祭  
子どもが主役 豊作願う金田の春祭り

金田菅原神社の神幸祭が4月13日から2日間行われました。豊作を願うこの祭りは長らく途絶えていましたが、青少年の健全育成を目的に平成9年に復活。子どもが主役の春の風物詩として地域に根付いています。今年も宝見・町部・上金田の3地区が山笠を建立し、囃子と威勢のいいかけ声が春空に響きました。



↑ 大人顔負けの「オーラヤッサ」のかけ声で、元気に地区内を運行(宝見)。

↓ 故・藤本祥鴻氏の作品を前に微笑む妻・藤本鈴子さん(左)と実兄・藤本昭さん。



**名** ~書を想う~ 藤本祥鴻遺墨展  
書家の渾身の表現による遺作を展示

西日本書美術展で大賞を受賞するなど、多数の入賞歴をもつ書道家・藤本祥鴻氏(赤池)の遺墨展が「ふくちのち」で4月17日から5日間行われました。生前に書き上げた思いのこもる47点を一挙に展示。妻の鈴子さんは「夫が生きた証である書が、多くのかたの目に触れてうれしいです」と感慨深い様子でした。

↓ 今年は選手と来場者の交流時間を例年より長く設け、子どもたちも外国人選手と積極的に対話。



**言** 国際車いすテニス大会交歓会  
言葉の壁を超えた心の交流

旧金田町とカナダ人選手の交流をきっかけに始まり、今年で29回目を数える飯塚市国際車いすテニス大会の出場選手をもてなす交歓会が、4月27日に金田体育館で開催されました。熱戦を繰り広げた選手約40名を、獅子舞や吹奏楽演奏、ダンスで歓迎。選手も餅つきや炭坑節などアトラクションに積極的に参加し、約5百人の来場者との交流を深めました。

**満** 定藤寺の藤まつり  
開の迎藤の藤がまつりを彩る

福岡県の天然記念物に指定されている定禅寺の「迎接の藤」が4月29日の藤まつりに合わせて満開を迎え来場者を喜ばせました。当日はあいにくの空模様でしたが、大型連休中に帰省した家族連れなども多く来訪。一面の薄紫の中、虚無僧による尺八奉納など厳かな祭事が行われ、藤のさらなる長寿を願いました。



↑ 藤棚の下を7人の虚無僧が進んでいく幻想的な世界が多数の来場者を魅了。

↓ 一時は存続が危ぶまれた稚児舞も、今年は昨年以上の12人が参加。



**地** 南木菅原神社神幸祭  
地域一体で守り続ける伝統の稚児舞

南木菅原神社(神崎)の神幸祭が5月2日から2日間行われました。4~15歳の稚児が御旅所やほこらなど6箇所をめぐる練習を重ねた舞を奉納。地区の誰もが一度は体験するこの稚児舞を経て、男性は獅子、女性は笛を担当していきます。親から子へ、地域全体で守られる伝統として今日まで受け継がれています。